

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円はレンジ内での推移か

[5月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	5月8日～5月12日			
	始値	高値	安値	終値 前週比
ドル・円	134.82	135.47(10)	133.75(11)	134.71 -0.09
ユーロ・ドル	1.1024	1.1054(8)	1.0900(11)	1.0931 -0.0088
=====				
国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	29,388.30	+230.35	日本10年債利回り	0.391 -0.030
ダウ平均株価	33,309.51	-364.87	米10年債利回り	3.384 -0.053
=====				

<来週の主要経済統計等>

- 15日 スイス4月生産者・輸入価格
ユーロ圏3月鉱工業生産指数
カナダ3月卸売上高
米5月NY連銀製造業景気指数
米3月対米証券投資
- 16日 中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高
英4月雇用統計
独5月ZEW景況感指数
ユーロ圏第1四半期GDP改定値、ユーロ圏3月貿易収支
カナダ4月消費者物価指数、カナダ3月製造業出荷
米4月小売売上高
米4月鉱工業生産・設備稼働率
- 17日 日本第1四半期GDP1次速報
日本3月鉱工業生産指数確報値
ユーロ圏4月消費者物価指数確報値
米4月住宅着工・許可件数
- 18日 NZ第1四半期生産者物価指数
日本4月貿易収支
豪4月雇用統計
米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数
米4月中古住宅販売件数、米4月景気先行指数
- 19日 NZ4月貿易収支
日本4月消費者物価指数
独4月生産者物価指数
カナダ3月小売売上高
主要7カ国(G7)首脳会議(広島サミット)開幕(21日まで)
パウエルFRB議長 討論会参加

【前回のレビュー】ドル円はFOMC、米経済指標の動向、米地銀の経営不安などに左右されて、上下に振幅しやすい展開となりそう。日銀は大規模緩和策の継続の意向を示しており、ドル円の下値を支えるとみられ、底堅い動きを見せつつ、もみ合いながら上値を追う展開になるとした。

【米物価指標の発表通貨】

10日に発表された4月の米消費者物価指数は、前年比は総合が+4.9%となり、事前予想(+5.0%)や前回(+5.0%)を下回った。これで10か月連続での昇

ベースの鈍化となる。コア前年比は+5.5%となり、事前予想(+5.5%)と同水準となり、前回(+5.6%)を下回った。コアの水準は依然として高止まりしている。

4月の米消費者物価指数のうち、エネルギーは前年比-5.1%と低下を見せたものの、食品は+7.7%と上昇傾向にある。なお、米連邦準備制度理事会(FRB)が重視しているとされる住宅関連を除くコアサービス価格(スーパーコア指数)は前月比+0.1%となり、前回の+0.4%から低下を見せた。米消費者物価指数を受けてドル売りの動きが広がり、ドル円は東京市場序盤に133円台後半まで下落した。

11日発表の4月の米生産者物価指数は、前年比+2.3%となり、事前予想(+2.6%)や前回(+2.7%)を下回った。コア前年比は+3.2%となり、こちらも事前予想(+3.3%)や前回(+3.4%)を下回った。前日の米消費者物価指数で物価上昇ペースが鈍化した後にドル売りとなっており、この日も米生産者物価指数の下振れがドル売りにつながった。ドル円は133円台後半まで再び下落したが、売り一巡後は134円台半ばまで戻りを見せた。

10日の米消費者物価指数で、総合の前年比での伸びが10か月連続で減速していることやスーパーコア指数の鈍化、11日の米生産者物価指数の下振れなどから、6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)では利上げ停止に動くとの見方が広がっている。

CME FEDウォッチによると、6月のFOMCでは政策金利据え置き確率が92%前後まで上昇している。なお、7月のFOMCでは、0.25%の利下げ確率が46%前後、据え置き確率が50%前後となっている。現在の米消費者物価指数のコア前年比の高止まりの状況からすると、7月に利下げに動くとの見方はちょっと先走り過ぎているとみられる。

6月のFOMCでは政策金利据え置きとの見方が広がる中、ドルは売りに押されやすい展開が続くとみられる。ただ、FRBによる利上げが続いてきた割には、米国経済は堅調な動きを見せており、利上げ停止が視野に入ってきたものの、ドル売り一辺倒とはなりにくい。米4月小売売上高などの一連の米経済指標が堅調ならドル買いに傾く局面も見られそうだ。こうした中、ドル円はレンジ内での推移になるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、132.00~136.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に米5月NY連銀製造業景気指数、米3月対米証券投資、16日に米4月小売売上高、米4月鉱工業生産・設備稼働率、17日に日本第1四半期GDP1次速報、日本3月鉱工業生産指数確報値、米4月住宅着工・許可件数、18日に日本4月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米5月フィデリア連銀景況指数、米4月中古住宅販売件数、米4月景気先行指数、19日に日本4月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルは修正安局面か】

ユーロドルは4日につけた1.1091近辺の高値から下落傾向にある。その後、ドルが堅調に推移したことや、1.10超での上値の重さなどから下落基調で推移している。戻しては売りに押される展開で1.0900ドル近辺まで値位置を下げていく。

ユーロ圏でのインフレ率の高止まりもあり、欧州中央銀行(ECB)による利上げ姿勢は継続するとみられる。ただ、1.10台乗せの後は上値を伸ばせずに足踏みしたこともあり、目先は修正安局面に転じることとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0750~1.1000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日にスイス4月生産者・輸入価格、ユーロ圏3月鉱工業生産指数、カナダ3月卸売上高、16日に中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高、英4月雇用統計、独5月ZEW景況感指数、ユーロ圏第1四半期GDP改定値、ユーロ圏3月貿易収支、カナダ4月消費者物価指数、カナダ3月製造業出荷、17日にユーロ圏4月消費者物価指数確報値、米4月住宅着工・許可件数、18日にNZ第1四半期生産者物価指数、豪4月雇用統計、19日にNZ4月貿易収支、独4月生産者物価指数、カナダ3月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。